平成22年度 海外研修 派遣報告書

福井大学医学部附属病院 藤本真一

本当に行ってよかった，というのが自分の正直な感想である．こんなに充実した日々を過ごせる機会はなかなか巡り合わないと思うので，行こうかどうか迷っている人はぜひ行くべきだと思う．いま思うと，出発前に抱えていた言い知れる不安は，いったい何だったのだろうと思う．

自分がこの研修に一番求めたものは，日本以外での医療を体験することであった．今回の研修では，講義以外にも施設見学が多く用意され，大学病院や 3D ラボ，外来専門の病院などを見ることができた．そこで感じたことは，まさしく患者さんの視点を考えた医療であった．アメニティもさることながら，読影レポートも早く出して患者さんに安心感を与える姿勢は，とてもすばらしく感じた．日本でもこのような病院は増えており，今後の医療の流れを感じることができた．

日本と米国での医療は，やはり保険制度の違いが大きかった．米国では保険に入っていない人の治療費はものすごく高く，正直支払えるとは思えない．このような情勢を見ると，日本の保険制度に守られている自分が幸せに感じた．

今回の研修では幸運にも 7T での撮影を，身をもって体験することができた．自分は幸いにも磁場酔いを感じなかったが，その音量は 3T と比べてとても大きく，防音対策をしっかりと行わないと長時間の撮影は難しいと感じた．撮影したシーケンスは T1 強調と T2 強調であった．T1 強調は T1 値延長の問題があり，まだまだ撮影プロトコルの練込が必要だと感じたが，T2 強調は 3T 以上の鮮明な画像が得られていた．

最も印象に残ったことは，研修に携わった人たちのモチベーションの高さであった．すこしでも多くのことを学びたい，という心持ちがとてもいい雰囲気を作り出していたので，心地よく研修を頑張ることができた．同じく，GEHC-J の方々やスタンフォード大学の方々，研修に携わった多くの方々が，この研修を成功させようと気配りしてくれているのがよく分かり，ほんとうに充実した日々を過ごすことができた．いずれは自分が研修を招く側となると思うので，そのときはここで受けた研修の体験を生かしたいと思った．

日本では，国民に見える医療，というのが最近注目されている．今回の研修で，米国でも同様に国民に見える医療を目指していることが分かり，自分も医療に携わるものの一員として，国民に見える診療放射線技師として何ができるかを考えながら，日々励んでいく次第である．

最後に，この研修を快く送り出して頂いた本院諸兄，研修中にお世話になりましたスタンフォード大学の皆さま，GE ヘルスケアジャパンの皆さま，九州大学西川団長，研修に関わりましたすべての方々に，心よりお礼申し上げます．

修了証書授与式にてモズレー先生とともに．